2012.11.1
105

会報

もくじ

② 寄稿 京都の文化遺産を守り継ぐために
「神泉苑の歴史と保存への取り組み」
神泉苑住職 鳥越 英徳

④ 表紙写真解説 守り伝えよう京都の文化財
助成文化財の紹介―「相国寺 長得院 本堂障壁画」

⑤ 特集 京の近代仏堂 その3
「近代的様式の模索」
京都市文化市民局文化芸術都市推進室 文化財保護課技師 清水 一徳

⑨ 保護財団の活動

公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団
Kyoto cultural tourist resources protection foundation

寄稿

京都の文化遺産を守り継ぐために

神泉苑の歴史と保存への取り組み

鳥越　英徳

神泉苑の創建

神泉苑は今を去る、千二百十数年の昔、延暦13年(794)、桓武天皇が平安京を造営されたとき、造営されました。神泉苑のこの場所には多くの池沼が存在し、平安京の都市計画に併せて天皇の遊宴の庭園として造られたものであり、一般庶民は入苑を許されないという意味で「禁苑」と呼ばれました。

境内の規模は、北は二条大路、南は三条大路、その間には、押小路、三条坊門小路（後に御池通とよばれる）姉小路が存在します。

東は大宮大路、櫛笥小路そして最西の壬生大路に至ります。面積は約十万㎡に及びます。境内の東北にある「神泉」から涌き出た水は、小川を通って大池にそそぎ、池畔の乾臨閣を正殿にして、左右に楼閣や釣殿、滝殿が配置されていました。歴代の天皇、貴族が行幸されました。

平成３年から行われた地下鉄東西線工事に伴う発掘調査の際、遣水の流路や、船着き場の木材などが発見されました。また、緑釉瓦（大極殿などに使用された）も発掘されています。

神泉苑造営から６年後の延暦19年（800）には早くも桓武天皇の行幸がなされ、以後、正史に表れるだけでも31回、神泉苑に遊ばれています。桓武天皇にとどまらず、嵯峨天皇も神泉苑に行幸を重ね、弘仁３年（812）には嵯峨天皇が行幸され、平安京における日本ではじめての天皇の観桜の宴が神泉苑において行われました。

神泉苑の宴遊に、弘法大師空海も同席されたと思われます。

空海の『性霊集』（図１）には「秋の日、神泉苑を観る」として

最初の二句で神泉苑に訪れ感銘を受けたことが歌われ、後の六句で神泉苑の魅力と嵯峨天皇のお徳への帰依が伺えます。

「秋の日、神泉苑を観る」　弘法大師空海―七言詩（性霊集　巻一）

神泉に彳亍して物候を観る　心神恍惚として帰ること能はず
高台の神構は人力に非ず　池鏡泓澄として日暉を含む
鶴の響天に聞えて御苑に馴れたり　鵠の翅且く戢めて幾ばくか飛ばんとす
游魚は藻に戯れて数鉤を呑み　鹿は深草に鳴いて露衣を霑す
一たびは翔り一たびは住りて君徳を感ず　秋の月秋の風空しく扉に入る
草を銜み梁を啄んで何ぞ在らざる　蹌蹌として率い舞いて玄機に在り

図１

神泉苑境内

霊場としての神泉苑

この、天皇行幸の場としての、神泉苑が徐々に変化した契機となるのが、空海による雨乞いです。天長元年（824)、日本中の日照りの際、空海は天皇の命を承け神泉苑において北天竺の善女龍王を御勧請（招き）請雨経法を修され、その結果沛然として雨が降り、善女龍王は神泉苑の池に止まることとなりました。これを契機に神泉苑は祈雨の霊場として喧伝されるようになりました。

その後、幾度もの火災や荒廃や二条城造営のため、縮小を経ますが、1600年頃に現在の神泉苑が形づけられたものです。広さは、約6600㎡です。

文化財維持への取り組み

神泉苑の鐘楼堂

神泉苑鐘楼堂（図２）はもともと、境内西南の隅にあったものを、昭和38年の災害復旧と共に現在の神泉苑北東に移築されたものです。鐘楼は宝永の絵図に確認でき、梵鐘は正保３年（1646）に神泉苑中興の祖、快我上人によって鋳造されたものです。

梵鐘（図３）の材質は青銅の鋳造で、高さ133㎝、口径76㎝、鐘身は上帯・中帯・下帯の三本の横帯で水平に区切られ、垂直にも縦帯で区切られます。縦帯は四本で、縦身をたてに四分割します。

上帯と中帯の間の空間は上部は「乳の間」、下部を「池の間」と呼びます。神泉苑の梵鐘には「乳の間」には「乳（ち）」と称する突起状の装飾を縦横五個ずつ計百個つけています。「池の間」には銘文と、蓮華座に載った梵字が刻まれています。

銘文には

神泉苑中興の祖、快我上人により鋳造された。施主は千蔵院、

釜座の名越（江戸の釜師名越善正の家系）出羽大極入道浄正

正保三年（一六四六）三月吉祥日に法印権大僧都實祐が敬って　　申す　　と刻印されています。

神泉苑での梵鐘の主な役割は法要や、祭典の行事の予鈴として撞（つ）いたり、除夜の鐘として地域の善男善女の方々に親しまれています。第二次世界大戦時に出された金属類回収令により、日本の多くの梵鐘（約九割）が供出されましたが、幸いにもその難を逃れました。

その音色は、錫の合金比率で決まると言われています。音程を測定したところ「Ｃ－ド」の音と判明しま

図２　修復された鐘楼堂

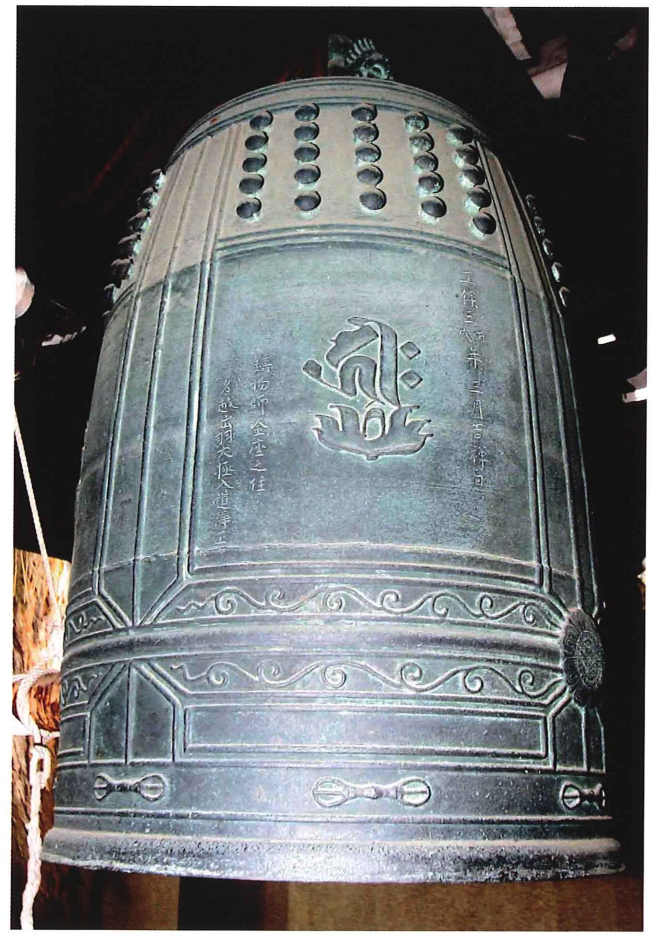


図３　梵鐘

した。私ども真言宗の僧侶としましては声明のさい、頭（リーダー）のとる音程が重要となりますので、予鈴に撞いた梵鐘の音を基本にして僧侶が頭をとったと思われます。

鐘楼堂修復へ

長年の風雨及び落葉や枝の落下による損傷などによって雨漏りし化粧垂木などをいためていました。京都市及び京都府の担当の指導を仰ぎ、平成24年２月に着工し、３月に竣工しました。

工事にあたっては、着工前の記録と、瓦及び木組みで再生可能なものを選別保存の方向を打ち立て、古瓦は約50％を日当たりの良い、東流れ、及び南側に再用しました。工法としては現状の土葺きですが、空葺きとし、軽量化をはかり、新調する瓦は、岐阜産の耐寒瓦とし、焼成温度1150℃以上、吸水率８％以下のものとしました。

（施工の資料は業者、竹村瓦商会、福井工房より頂きました）

お陰様で無事竣工し、行事の予鈴、除夜の鐘等に撞かせて頂けるのをたのしみにしております。

なお、今回の修復事業には、鐘楼堂関係が560万円、周囲の樹木の整備に80万円がかかりましたが、京都市文化観光資源保護財団様と、京都府文化資料保全関係から助成金を過分に頂戴して感謝しております。

神泉苑の境内には他にも補修すべき建造物が数点ありますので、長期的に計画を立てる所存でございます。皆様方のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

（神泉苑住職）

表紙写真解説

守り伝えよう京都の文化財－助成文化財紹介

相国寺 長得院 本堂障壁画

紙本墨画・伝　岸 連山 筆・制作年代不詳
京都市上京区相国寺門前町

長得院境内（上）・本堂（下）

紙本墨画「人物図」襖絵４面

長得院は，応永年間（1394～1428）に創建されたと伝わる臨済宗相国寺の塔頭寺院。幾度の火災により焼失し，現在の本堂は天明の大火後の再建とされる。

６室からなる本堂の室内には，52面の水墨画の障壁画で飾られ，「人物図」(本表紙部分掲載)，「虎図」，「鷲図」，「山水図」など描かれている。筆者は，署名，落款から岸駒（1756～1839）の門人で，岸駒に学び，山水・花鳥図を得意とした幕末画壇の平安四名家の一人にあげられる岸連山（1804~59）と伝わる。

長年の劣化等による損傷が著しいことから３カ年計画で修理が施され，当財団で助成を行っています。

撮影　神崎順一

特集

京の近代仏堂 その3

近代的様式の模索

清水　一徳

はじめに

前回号（『京の近代仏堂』－その２－）では古社寺修理の開始と平行して，およそ明治30年代より出現する古代，中世建築に様式的な範を得た仏堂建築を「復古主義」として取り上げました。

その設計には古社寺修理を経験した建築家が多く関わっていましたが，彼らは歴史的建築の意匠の折衷やその復元の試行・遂行に留まらず，さらに復古を超えて伝統的意匠・形態を再構成しながら積極的に新意匠の創造に踏み込んでいきます。

そしてこの急先鋒としては，前回号でもご紹介した京都府技師亀岡末吉（1865-1922）が挙げられます。「亀岡式」と称されるようになるその作風は，建築の概形は古建築から引用しつつ，欄間等を埋める彫刻に伝統意匠を抽象化，変形したもので置き換えるものでありました。その作風は，古社寺修理技術者や内務省を経て，全国に流布していきます。

しかしながら，市内の近代仏堂遺構を展望してみると，「亀岡式」に代表される独創的な細部意匠の展開に留まらず，その設計の特徴として全体の格好やプロポーションの巧みな構成をもつものも多くみられ，かつて登場したことのない仏堂建築を細部のみならず建築全体として編み出そうとする作者の強い意識も看取することができます。特に大正から昭和戦前期にかけては以上の傾向は顕著なものであったとみられます。

今回は，この種の日本近代期特有の表現的特徴を併せもつ仏堂建築を「近代的様式の模索」として取り上げ，京の近代仏堂がどのように前近代を継承し，一方新たな建築的変容をどう見せていったかその成立と展開の実態について，３件の具体事例を取り上げながらその一端を紹介してみようと思います。

鞍馬寺寝殿

京都市左京区鞍馬本町

鞍馬寺は鞍馬弘教の大本山であり，鞍馬川を脚下に見る鞍馬山南中腹に位置します。宝亀元年（770）鑑真の高弟鑑禎上人が一庵を草創し，延暦15年（796）藤原伊勢人の時に鞍馬寺を創建したと伝えます。

鞍馬寺は実に火災の多い寺院であったため，江戸時代以前の建造物は伝存していません。明治維新後は本堂（明治６年=1873），仁王門（明治44年）の再建，大正11～13年（1922～1924）にかけて本堂の修理，護摩堂の再建などが成り往古の姿を整えはじめましたが，昭和20年（1945）に堂舎の大半が焼失してしまいます。その後再び山容復興に邁進することにより現在の伽藍の骨格が形成されています。

寝殿は大正期の復興建築遺構です。敷地は本殿への石段を登りきる手前の石垣上に選定され，大正12年７月に上棟式，同年10月に竣工を迎えています。設計は当時奈良県技師の岸熊吉（1882-1960），監督は細見藤吉が担当しています。

建物は住宅風の洗練された優美な建築で，主要部を桁行８間，梁行５間の規模をもつ東西方向の入母屋造，銅板葺（元は桟瓦葺）とし，西方に縋破風造の庇をかけ諸室を付加，東妻の南寄りに切妻屋根を突き出し寝殿への出入口と同時に南に広がる庭園と

図１　寝殿全景

図２　寝殿内観
手前から中央板間，西端上座を見る。

図３　上座および上段の間

の仕切とします（図１）。平面は３室を東西一列にならべ，それぞれ北側に奥行き１間の室を付設，入側縁をめぐらせて主体部を構成します。南に吹放ちの広縁を付け，周囲に落縁をめぐらせます。中央室は板敷で24畳大と広く，略儀の仏事をここで行います（図２）。西端の９畳は上座の間となり床と帳台構を設けます。その北に床面を一段高くして長４畳の上段の間とし，壁面折矩に違棚・付書院を装置しています。

寝殿は書院造と寝殿造のおもしろい交流をみせています。広縁東端に板間を突出させ，客人の出入口となし，柱間装置に妻戸（両開き戸）に並ぶ横格子の櫛型・連子窓を設けた壁面をつくる構成は，公家住宅一般にみる中門廊を象徴するもので寝殿造のおもかげをよく残しています。建物内外を隔てる建具として蔀戸を多用し一部に妻戸を用いていること，周囲の落縁に高欄をめぐらしている点，いちだんと寝殿造に接近したものとなります。

しかし，内部は西端室を上座に３室を一列に並べた対面所にも通じる形式とし，上座・上段の間には床・棚・帳台構・付書院を配し，天井を折上小組格天井にするなど，完全に書院造の方式をとります（図３）。つまり外形には寝殿造の名残りがかなり残っていますが，内部は完全に書院造の手法にしたがっているのです。

内部の細部意匠は，各室境の内法長押の上に入れる彫刻欄間の透彫，上段の間の違棚の構成，各所の金具文様などにて書院の一律的な形式からはなれた新鮮な感覚をもって意匠を展開させています。

寝殿の大きな特徴は，歴史的建築の復元を遂行するという受け身としての継承ではなく，平安後期に大成された寝殿造と中世以降の書院造を現在の建物に応用し独自の木造建築を現出している点にあると言えます。近代日本建築が伝統的建築への理解と創造的展開を具体的な堂宇造営を通して見せた重要な実践例として，かつその秀作として注目される作品です。

知恩院納骨堂

京都市東山区新橋通大和大路東入三丁目林下町

浄土宗総本山である知恩院は華頂山麓に位置します。浄土宗開祖法然上人源空の入寂の地にあたり，境内に多くの堂舎伽藍を有する洛東の巨刹です。徳川家康の時期以降，寺地の拡造成が進められ主要建築が立ち並び，なかでも法然上人の御影を安置する御影堂（本堂）は寛永16年（1639）の再建で，桃山風の名残りをもち正面柱間11間にも及ぶ広壮な建築として諸堂の中核を占めます。

納骨堂は御影堂の東南方，放生池に架かる石橋を東に渡り，石段を登り詰めた小高い森の中に均整のとれた美しい姿をみせています（図４）。善導大師の遠忌記念事業の一環として昭和２年（1927）に建設が決定され，同３年12月に立柱，同５年４月に落慶を迎えています。設計は前回号でもご紹介した京都府技師阪谷良之進が担当しています。

建物は石造基壇の上に建つ平面方形の一重裳階付の御堂で，その設計方針を平等院鳳凰堂に求めたとされます。裳階は方３間，蓮弁を刻む地覆石に面取柱をたて，各辺中央間は幣軸つき両開き板扉を装置（背面のみ板壁にて塞ぐ），左右の各間は連子窓に造ります。柱頭および中央柱間上に大斗を置き，平三斗で軒桁を支えます。

図4　納骨堂全景

下層（裳階）屋根から上方へ覗く身舎は方1間，周囲に縁高欄を廻し，四隅と各辺中央に和様四手先組物を据え上層軒を支持します。軒まわりは上下層とも二軒とし，屋根は本瓦葺で上層を宝形造とし頂上露盤と四隅に金銅製の鳳凰をおき，下層屋根は縁高欄下から四方へ葺きおろします。

内部は四半土間敷の間仕切のない空間で，裳階柱筋に身舎丸柱を4本立て，内陣を構成します。内陣後ろ寄りに来迎壁と須弥檀を構え，阿弥陀三尊を中心に諸仏を安置します。室内装飾に彩色が主体の華麗かつ濃厚な荘厳を尽くしています（図5）。

建物は軒反り技法，組物様式，瓦当文様などからも設計の典拠を古典に求めていることがわかります。しかしその一方では波瀾曲折の妙を画しながらこれを崩してもいます。たとえば納骨堂の屋根は外観上二重となりますが，上層の軒先が下層より外方に多く出ているにも関わらず，建物の均衡が保たれ，落ち着いたかたちとなります。これは裳階屋根から上方に覗く柱を極度に低く抑えることにより，外観上上層の高さを下層に釣り合せ，柱上に複雑に積み上がった四手先組物の一手目を縁高欄の見え隠れにするという抑制・矯正処理がおこなわれた結果とみられます。

また下層の軒においては垂木のみならず茅負に至るまでごく大きい面をとり，互いを面内に含み込むように密着させるという変則的な処理がおこなわれ，およそ堂宮建築とは思われないほどの軒構成の軽快感が実現されています（図6）。

当建築は古式を遵守する立場と創造的な展開が共存しながらも，全体として整った調階を得て破綻なく纏められており，設計者である阪谷良之進の日本建築に対する技術的・様式的知見の充実ぶりや優れた造形感覚が伺えます。明治以降の仏堂建築形成へのさまざまな試みの系譜にあって，古格と時流の調和を深く示した近代仏堂の代表作として理解されることができるでしょう。

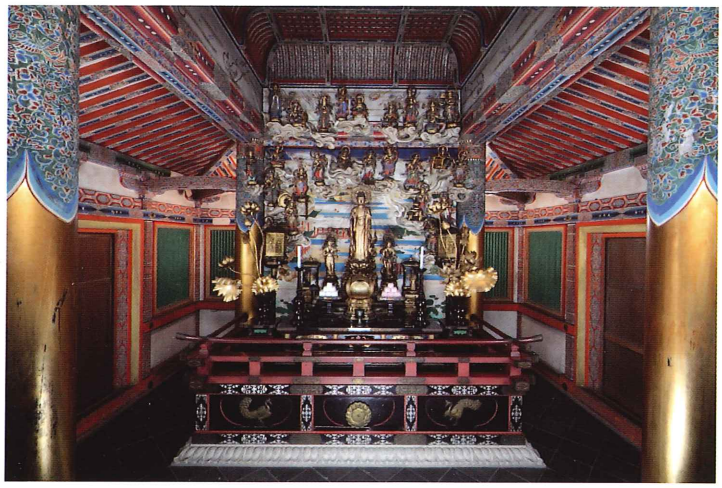


図5　納骨堂内観

図6　下層（裳階）組物・軒廻り

神護寺金堂

京都市右京区梅ケ畑高雄町

神護寺は和気清麻呂の創建になる高雄山寺を元とし，空海が入寺以来，真言寺院として寺基を整え，一大山上伽藍を形成したのにはじまります。中世の盛衰を経て後，近世初頭には寺勢を回復するも明治維新以降は一部の伽藍をとどめる状況でありました。昭和初期に至り寺門の復興に腐心するなか，これを知った実業家山口玄洞が大檀越となり，昭和8～10年（1933～1936）に復興事業を推進，専任設計技師として元京都府技師の安井楢次郎（1873-1942）

を充て，金堂をはじめ，多宝塔，和気公霊廟，茶室等を建立，毘沙門堂その他を修繕して現在の伽藍の基本が構築されました。

金堂は神護寺の中心堂宇であり，境内西方の大石段上にその広壮な姿をみせます。昭和８年１月起工，同年７月上棟，同12月に竣工を迎えています。高い石垣基壇上にたち，桁行７間，梁行６間，屋根は本瓦葺で入母屋造とします（図７）。本尊に国宝・薬師如来立像を祀ります。柱はすべて丸柱で，外周柱間は正面中央３間および側面１ヶ所にて板扉を吊り，他を連子窓とします（背面は白壁にて塞ぐ）。建物四周には擬宝珠高欄を廻し，組物は和様三手先，軒は二軒繁垂木とします。

図７　金堂全景

堂の内部は密教修法を行する板敷の３間四方の空間を中核とし，その後方に本尊ならびに諸尊を祀る須弥檀を列し内陣を構成，この正・側面に外陣を廻らせています（図８）。内陣と外陣を境する円柱上には和様二手先の組物を組みます。二手先の組物で持ち出されたなかは外陣を小組格天井，内陣はこれを折上げとしています。建物は内外とも丹を主体に塗りますが，諸尊を祀る内陣一郭のみは黒漆を地色に極彩色装飾文を要所に施し，仏の境域内外で美しい対比を示しています。

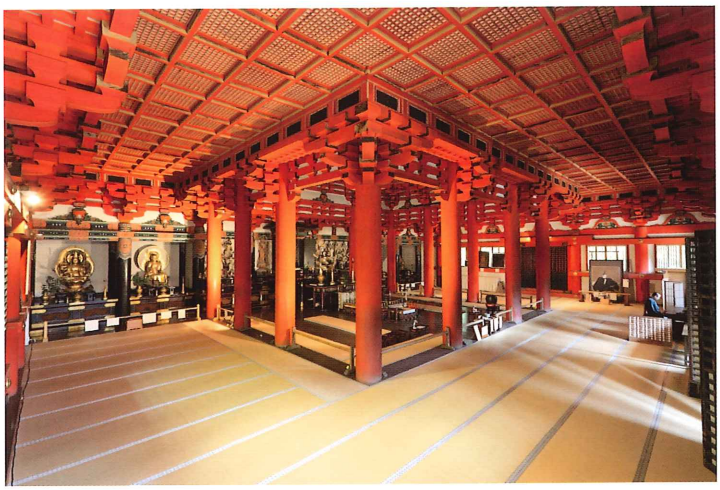


図８　金堂内観

全体の堂構成で特徴的なのは，堂内の間仕切りのない開放的かつ一体的な構成と内陣の正・側面を包み込む凹字型の外陣にあります。外陣巾は柱間２間と広く，更に一連に天井を張り，畳を敷き詰め，座居に適した落ち着いた空間であり，内陣を囲むことにより諸仏や修法との密接な距離感が生まれ，建築空間としても組物など内陣の正・側面を意匠的に見せることに供しています。

細部の意匠や技法をみると，外陣の天井周縁を飾る横連子，柱の隅延び，須弥檀格狭（こうざま）間にみる俗に「蝙蝠（こうもり）型」といわれる輪郭，軒丸瓦の蓮華文などに，古代・中世を基調に古格を遵守するという設計者のはっきりとした意識が感じられます。しかしその一方では，高欄や板扉へ打つ飾金物の図案的な文様，組物間の蟇股（かえるまた）や笈形（おいがた）にみる極彩色の緻密な渦唐草などに自在で意欲的な造形や表現をみせています（図９）。

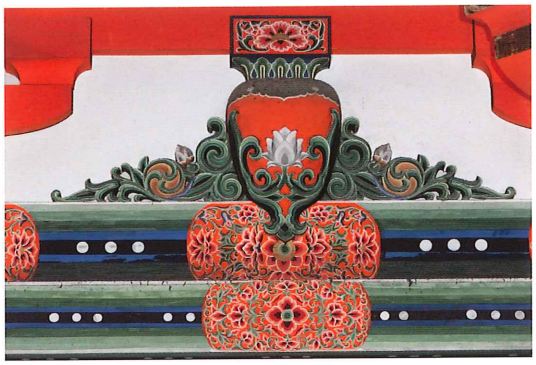


図９　内陣組物間の笈形

金堂の建築された昭和初期は，新たな仏堂建築の設計において積極的な創意工夫がもたらされ，所謂新興社寺建築の時代を構成し，若しくは構成しつつある時期にあります。金堂における内部空間の巧みな構成，また歴史的文脈は尊重しつつ独創的な細部意匠を展開させる点は，設計者の安井楢次郎が堂宮建築に関して当代随一の意匠構成力を有していたこと，またこうした造営を可能とする京の堂宮系大工技術が確かに存在していたことを眼前に証明してくれます。

（京都市文化市民局文化芸術都市推進室　文化財保護課技師）

保護財団の活動

評議員・理事並びに専門委員の一部異動

これまでに評議員並びに理事の一部異動がありました。また，専門委員の死去などに伴い，新たに２名の方を委員にご就任いただきました。（順不同・敬称略）

◇評議員

就任　北畠　典生（浄土真宗本願寺派執行長）

退任　橘　正信

◇理事

就任　谷口　宗哉
（株式会社三菱東京UFJ銀行執行役員京都支社長）

退任　籔田　健二

◇専門委員

就任　高橋　康夫（京都大学名誉教授・花園大学教授）

伊東　史朗（和歌山県立博物館館長）

平成24年度文化観光資源保護助成事業に50件，6,172万円の助成金の申請がありました。

平成24年度の文化観光資源保護助成事業について，去る６月に受付を行いましたところ，下記内容のとおり50件，6,172万円の助成金申請がありました。

事務局で各事業内容の実地調査を行い，調査内容をもとに専門委員会で審議いただき，本年度の助成対象を選定いたします。

平成24年度　文化観光資源保護助成事業申請一覧

１）文化財所有者，管理者等の行う文化観光資源保護事業に対する助成

単位:万円

申請者	事業内容	助成金申請額
八坂神社(東山区)	末社美御前社修理工事	70
建仁寺(東山区)	開山堂楼門修理工事	70
賀茂別雷神社(上賀茂神社,北区)	摂社賀茂山口神社本殿修理工事	70
神泉苑(中京区)	善女龍王社拝殿修理工事	70
長得院(上京区)	本堂襖絵修理	70
真正極楽寺(左京区)	「花車図」六曲一双屏風,右隻修理	70
計	6件	420

建仁寺 開山堂楼門修理工事

経年劣化による木部の腐朽，柱の傾斜が著しいことなどから，地盤改良の基礎工事や建具などの修理工事が行われます。

賀茂別雷神社（上賀茂神社）摂社賀茂山口神社本殿修理工事

屋根の損傷が著しいことから檜皮屋根の葺き替えなどの修理工事が行われます。

２）伝統行事・伝統芸能の保存及び執行に対する助成

（1）伝統行事，伝統芸能保存事業

単位:万円

申請者	事業内容	助成金申請額
㈶祇園祭山鉾連合会	祇園祭山鉾修理事業6件	306
京都五山保存会連合会	五山送り火各山火床整備事業	380
計	2件	686

祇園祭“放下鉾”の車輪保存修理事業

長年の使用により車輪の損傷が激しいことから解体修理が行われました。

五山送り火“左大文字”火床整備事業

行事の執行に支障のないように火床の修理などが行われました。

（2）伝統行事，伝統芸能執行・公開事業

単位:万円

申請者	事業内容	助成金申請額
葵祭行列協賛会	葵祭行列の執行	675
祇園祭協賛会	祇園祭山鉾巡行の執行	2,000
京都五山送り火協賛会	京都五山送り火の執行	650
時代祭協賛会	時代祭行列の執行	623
嵯峨お松明保存会	嵯峨お松明の執行	20
賀茂競馬保存会	賀茂競馬の執行	25
藤森神社駈馬保存会	藤森駈馬の執行	25
糺の森流鏑馬神事等保存会	糺の森流鏑馬の執行	25
鞍馬山竹伐り会式保存会	鞍馬山竹伐り会の執行	13
花脊松上げ保存会	花脊松上げの執行	25
広河原松上げ保存会	広河原松上げの執行	25
雲ケ畑松上げ保存会	雲ケ畑松上げの執行	20
烏相撲保存会重陽社	烏相撲の執行	10
西之京瑞饋神輿保存会	瑞饋祭の執行	25
北白川伝統文化保存会	北白川高盛御供の執行	12
日野裸踊保存会	日野裸踊の執行	6
鞍馬火祭保存会	鞍馬火祭の執行	200
桂川舟渡し保存会	松尾祭桂川舟渡御の執行	10
蹴鞠保存会	蹴鞠の公開	20
平安雅楽会	雅楽の公開	15
壬生大念仏講	壬生狂言の公開	15
神泉苑大念仏狂言講社	神泉苑狂言の公開	15
千本えんま堂大念仏狂言保存会	千本えんま堂狂言の公開	20
嵯峨大念仏狂言保存会	嵯峨狂言の公開	20
吉祥院六斎保存会	吉祥院六斎の公開	15
久世六斎保存会	久世六斎の公開	15
中堂寺六斎会	中堂寺六斎の公開	15
梅津六斎保存会	梅津六斎の公開	15
小山郷六斎念仏保存会	小山郷六斎の公開	15
千本六斎会	千本六斎の公開	15
嵯峨野六斎念仏保存会	嵯峨野六斎の公開	15
壬生六斎念仏講中	壬生六斎の公開	15
西方寺六斎念仏保存会	西方寺六斎の公開	13
川上やすらい踊保存会	川上やすらい花の公開	13
今宮やすらい会	今宮やすらい花の公開	13
玄武やすらい踊保存会	玄武やすらい花の公開	15

申 請 者	事業内容	助成金申請額
上賀茂やすらい踊保存会	上賀茂やすらい花の公開	13
久多花笠踊保存会	久多花笠踊の公開	25
八瀬郷土文化保存会	八瀬赦免地踊の公開	20
松ヶ崎題目踊保存会	松ヶ崎題目踊の公開	10
番匠保存会	上棟祭の公開	10
計	41件	4,746

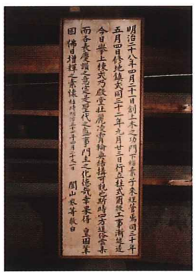
3）文化観光資源をとりまく自然環境の保全及びその整備に対する助成

単位:万円

申 請 者	事業内容	助成金申請額
(公財)京都古文化保存協会(東山区)	松喰虫駆除事業	320

京都市域の近代仏堂建築の調査・写真記録を行っています。

昨年度より京都市域の代表的な近代寺院建築について，京都市文化財保護課とともに現地調査と建築細部の写真記録を行っています。明治から昭和初期に建立されました仏堂建築の今後の保存・保護を図っていくうえでの資料とするものです。現在，当会報に連載しています特集「京の近代仏堂」の文中において，調査写真の一部を掲載しています。



仏光寺(京都市下京区) 阿弥陀堂　屋根裏「棟札」の記録(調査写真より)

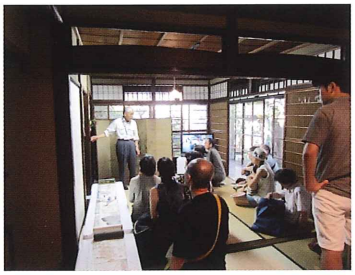
「名勝 雙ケ岡」，「旧三井家下鴨別邸」の樹木整備など行い，景観の保全につとめています。

京都市からの委託により維持・管理を行っています26カ所の史跡などのうち，「名勝　雙ケ岡」(京都市右京区)において，樹木が道路上に覆いかぶさり通行に支障が生じるなどの危険な状況にあったことから枯損木や危険木の伐採を行い景観保全につとめています。また，重要文化財「旧三井家下鴨別邸」(京都市左京区，現在は建物の修理工事中のため非公開)において，樹木の剪定や伐採，落ち葉清掃などの整備作業を行い庭園の良好な景観維持につとめています。

「名勝 雙ケ岡」
樹木が道路に覆いかぶさり危険な状況になっていることから危険木を伐採し，景観保全につとめることにしています。

「旧三井家 下鴨別邸」　整備前(左)，整備後(右)
庭園の樹木整備などを行い，良好な景観維持につとめました。

京都市指定文化財「長江家住宅－祇園祭屏風飾り－」特別公開事業を実施しました。



去る7月14～16日の3日間，京都市指定文化財「長江家住宅」の祇園祭宵山屏風飾りの特別公開事業を実施しました。公開期間が連休でもあったことから延べ2,243名の多くの見学者を数えました。また，今回も見学者への案内・説明を「京都の文化財を守る会」ボランティア部の皆さんにご協力いただきました。

この特別公開事業は，京都の文化財や観光資源の公開を通じて，その保護思想の普及につとめ見学料の一部を，対象文化財の維持管理に助成することを目的に実施しているもので，今回も当住宅の維持管理のため見学料の半額を助成し，役立てていただきました。

2013/平成25年版　京の文化財卓上カレンダー「京の名所の四季」

京都の文化財や観光資源の保護思想の普及啓発と当財団の活動を広く紹介することを目的に毎年作成しています。2013年版は，『京の名所の四季』をテーマに，京都の四季折々に美しい主な名所を掲載し，作成しました。

■**規格**　卓上型・10cm×17.4cm・14枚組(表紙・2014年カレンダー含む)・解説書

■**掲載内容**

・表紙 龍安寺
・1月 賀茂別雷神社(上賀茂神社)
・2月 二条城
・3月 嵯峨越畑 河原家住宅
・4月 教王護国寺(東寺)
・5月 八坂神社
・6月 善峯寺
・7月 伏見稲荷大社
・8月 神護寺
・9月 梨木神社
・10月 大覚寺 大沢池
・11月 知恩院
・12月 嵐山

■**頒価**　限定500部　1部　700円(税込)

■**販売場所**

当財団事務局，京都総合案内所(JR京都駅)，東京「京都館」
※会員の方には，割引頒布をいたします。申し込みは，会員事業案内(別冊)又はインターネットホームページの会員専用サイトからお申し込み下さい。

ご支援・ご協力ありがとうございました

特別寄附金・一般寄附金・基金寄附金　芳名録（2012.5.1～8.31）

（敬称略）

[特別寄附金]

[公益目的事業共通]

法　人

慈済院　代表役員　小林承鐵（京都市）

個　人

原山八重子（京都市）　蔭山　利雄（京都市）　川嶋　純子（さいたま市）　伊勢　初枝（京都市）
草川　健治（京都市）　川嶋　博（さいたま市）　森　慶信（京都市）　ほか匿名２名

[文化観光資源保護事業]

法　人

山田繊維株式会社　代表取締役　山田芳生（京都市）

個　人

前田　英彦（京都市）　赤間喜代子（向日市）　浅野　明美（京都市）　築本佳世子（神戸市）
大野　要範（神戸市）　太田　稔（京都市）　山田　庫市（京都市）　川上　信也（流山市）
赤間　義男（向日市）　小塩　恭市（長岡京市）　平野　昭子（京都市）　ほか匿名７名

[普及啓発事業]

個　人

上村　芳蔵（京都市）

[一般(会員)寄附金]

法　人

壬生六斎念仏講中　会長　林啓之典（京都市）
黄梅院　代表役員　小林太玄（京都市）
北野天満宮　宮司　橘重十九（京都市）
霊雲院　代表役員（京都市）
鞍馬火祭保存会　会長　杉本光男（京都市）
宗教法人　善願寺　代表役員　田中良昌（京都市）
十輪寺　代表役員　泉浩洋（京都市）

個　人

伊藤　仁彦（京都市）　髙木　陽子（京都市）　川嶋　秀幸（さいたま市）　加勢　満男（京都市）
林　直巳（京都市）　今野　勇一（高槻市）　川嶋　純子（さいたま市）　加勢　本子（京都市）
野嶋　義治（宇治市）　舩越　勝博（京都市）　本道　隆子（藤枝市）　井上　京子（東京都町田市）
村川　伴子（京都市）　深澤光佐子（京都市）　降旗　密枝（大阪市）　渡邊礼以子（京都市）
上川　正（京都市）　堀江　精一（京都市）　今西　祥博（京都市）　折杉　富子（京都市）
矢野　精一（宇治市）　仲井　眞琴（京都市）　髙橋　信子（向日市）　藤本喜久枝（八幡市）
髙橋　和子（京都市）　升山　春彦（京都市）　村田　明彦（京都市）　保坂　清司（郡山市）
相馬すみ子（京都市）　白井　房枝（京都市）　石﨑百合子（京都市）　保坂　晶子（郡山市）
原山八重子（京都市）　宮橋　章子（京都市）　八木代志子（向日市）　新小田敏子（東京都）
津田　明子（京都市）　前中　恵子（城陽市）　宮本　吉章（京都市）　渡邊　勝広（京都市）
竹内　嘉一（京都市）　操田　邦男（堺市）　竹内キミ子（京都市）　林　詠子（八幡市）
山下　玲子（京都市）　船田　生人（鳥取県岩美郡）　藤井　節雄（京都市）　戸田　斉子（京都市）
古川しま子（京都市）　太田　稔（京都市）　柳井　浩（摂津市）　岡本　克彦（浜松市）
勝又　栄一（京都市）　淺見　喜弘（京都市）　吉川　克枝（京都市）　鈴木　茂（平塚市）
小澤　司（京都市）　堀　雄作（京都市）　山口　彰（京都市）　金子　明子（京都市）
小林知住子（京都市）　堀　冨佐子（京都市）　木村　弘子（京都府乙訓郡）　橋本　武尚（京都市）
岩城　博（東京都）　峠　紀子（茨木市）　林　秀太郎（鎌倉市）　髙橋利恵子（東京都）
岡　雅之（京都市）　毛利タカ子（八幡市）　岩本　正博（西宮市）　中村　忠司（京都市）
髙島　正子（京都市）　河村　光恵（高槻市）　岩本　歩（西宮市）　川上　信也（流山市）
村上　寿子（京都市）　江口　和廣（東京都）　平野　昭子（京都市）　山本　喜康（京都市）
杉原　賢一（京都市）　明石　忠（京都市）　石黒　達也（京都市）　水谷　信子（宇治市）
杉原　京子（京都市）　明石　睦子（京都市）　伊勢　初枝（京都市）
中岡　耀子（京都市）　岩附　清子（京都市）　鈴木　和子（京都市）
篠原　明（京都府乙訓郡）　川嶋　博（さいたま市）　糟谷　範子（京都市）　ほか匿名30名

【京都市文化観光資源保護基金寄附金】

個　人

山下　淑夫

※各ご芳名は，寄附受納日順に掲載しています。

－京都の文化遺産を守り伝える活動の輪を更に広げるために
皆様のご支援・ご協力をお願いいたします－

◇皆様からの特別寄附や新しい会員募集の呼びかけに一層のご支援とご協力をお願いいたします。また,当財団の活動を紹介していますパンフレットの配布・設置にもご協力下さい。

◇寄附金は，所得税控除など税の優遇を受けていただけます。当財団は，「公益財団法人」として認定を受けていますので,寄附金は特定公益増進法人として税制上の優遇措置が適用され，個人の方は確定申告により所得税の控除を，法人においては法人税の損金算入が認められています。また，京都市にお住まいの個人の方は，個人住民税（京都府民税，市民税）の控除が適用されます。

後援事業

第47回「京の冬の旅」

主催：公益社団法人京都市観光協会

平成25年１月10日㈭～３月18日㈪

今回の「京の冬の旅」非公開文化財特別公開～秘められた京の美をたずねて～では，NHK大河ドラマ『八重の桜』の主人公・新島八重ゆかりの寺や尼門跡寺院などが特別公開されます。

問い合わせ　京都市観光協会　☎075(752)7070

京都市文化観光資源保護財団ウェブサイト

ー京都　その文化遺産の保護と未来のためにー

http://www.kyobunka.or.jp

会員通信　会員事業を実施しました。

◆祇園祭山鉾巡行観覧事業（７月17日）

今年の祇園祭山鉾巡行は，梅雨明けの猛暑日の中で行われました。今年は，142年ぶりに大船鉾が唐櫃で加わり，33基となった巡行をご観覧いただきました。

◆火の祭礼「広河原松上げ」行事特別鑑賞（8月24日）

洛北の広河原に伝わる「広河原松上げ」行事の特別鑑賞事業を47名の参加のもと現地まで往復バスを利用し，実施しました。高さ約20mの「トロ木（檜丸太）」の先端にとりつけた大笠めがけて，「上げ松」といわれる火をつけた手松明を下から投げ上げ，点火させる光景は圧巻で，皆さん堪能されました。

参加された皆さんのご感想（一部・敬称略）

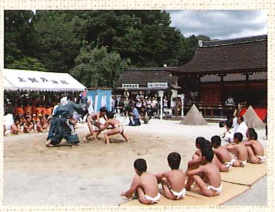
●松上げは，何か昔懐かしい気持ちにさせる夏の夜に相応しい行事でした。（深澤 誠）　●暗くなった松場で火の光跡をみていると幻想的な風景に時のたつのを忘れてしまいます。トロギが倒れたあと，ヤッサ踊りも楽しめました。（中村忠司）　●千数百本の地松が点火され火の海とかした光景に感動し，20mもの燈籠木が点火されると気持ちが昂ぶりました。（宮橋章子）　●心に残る無形文化財を鑑賞させていただき大変満足しました。左京区に70年以上住んでいながら初めて鑑賞しました。（匿名）　●写真をみるたび，どうしてあのような光景になるのだろうと不思議で説明文を読んでもよくわかりませんでした。正に百聞は一見に如かずでした。（匿名）

◆京都五山送り火記念の「扇子」を進呈

京都五山送り火協賛会により作製されました今年の京都五山送り火記念「扇子」を，大勢の皆さんの申し込みがありましたので，抽選により30名の方々に進呈しました。

◆重陽の神事「上賀茂神社　烏相撲」行事特別鑑賞（9月9日）

古来より９月９日を重陽といい，菊に長寿を祈る節句で，京都の各所でも祝いの行事が行われます。上賀茂神社の「烏相撲」行事もその一つで，参加された47名の方々に特別観覧招待席でご鑑賞いただきました。子供達の元気一杯の取組みに皆さんも声援を送られていました。その後，お祝いの菊酒をいただき，神社のご案内のもと本殿を特別参拝しました。



※会員事業に参加されました皆様からのご感想をインターネットホームページ会員専用サイトの“会員だより”に掲載しています。

◆当財団オリジナルポストカード“京の三大祭”を進呈

当財団で作成しました“京の三大祭”新オリジナルポストカードを,申込希望者77名全員に進呈しました。

オリジナルポストカードは各三大祭観覧招待事業において配布し，会員募集などの啓発に活用しているものです。

京都市文化観光資源保護財団　会報 No. 105
発行日／２０１２年（平成24年）11月１日
会報題字／理事長　山口昌紀
編集・発行／公益財団法人 京都市文化観光資源保護財団　事務局
京都市東山区三条通大橋東二町目73番地2　京都三条大橋ビル３階　〒605-0001
TEL 075(752)0235　http://www.kyobunka.or.jp
印　刷／株式会社 図書印刷 同朋舎